令和6年度知事定例記者会見［抜粋］

令和6年5月23日　知事定例記者会見［抜粋］

〇STS

　先日、13 日に新幹線の三者会談があったかと思うんですけど、そちらに関してお尋ねです。

　終了後の会見で JR 側と長崎県側が国を交えた四者の話合いの必要性を訴えていらっしゃいましたけれども、今後、この意見交換を続けていくにあたって、まず、どういった視点で続けていくのかということと、あと、国を交えた必要性についてどのように考えていらっしゃるか、見解を教えてください。

〇知事

　これは丁寧に説明したほうがいいと思うので、改めて、新しい記者さんもおられるので、もう一回話をしたいと思います。

　ここがいわゆる関係するところですね。西九州新幹線ルートというところです。もともとこの整備新幹線というものは、莫大な建設費負担とか、在来線の利便性低下などのデメリットを受け入れてでも、それをはるかに上回るメリットがあるからといって地元自治体が手を挙げて進めるスキームです。

　じゃ、今まで、地元、長崎県と佐賀県は何で合意したかというと、この武雄温泉から新鳥栖の間は太くない、この在来線のレールを使って、フリーゲージトレイン新幹線というもので、この同じ列車が、要はフリーゲージトレイン新幹線がここからこう発車して、こうして、ここに行くと、いわゆる狭軌といって、在来線の軌道にそのまま乗っかっていって、ここからまた新幹線に上がっていくと。いわゆるフル規格のところに行くと。要は、車軸が広がったり狭くなったりする、これをフリーゲージトレイン新幹線、それをもって合意をしています。なので、我々も、この青いところ、いわゆる鹿島、太良とか、多大な犠牲に遭って、これは私の知事になるもっと前の話ですけど、ここを犠牲にしても、これを合意したと。いろいろ紆余曲折あったようですけど、ということです。これは合意しています。

　それで、私も合意したことについては、それは守っていこうということで、知事になって以降も、これをフリーゲージトレインを進めて、与党の検討委員会などにも一緒になって予算をくださいというか、推進する立場で動いてきたわけなんです。

　ところが、このフリーゲージトレインが、ここの区間が、だから、在来線を通るフリーゲージトレイン新幹線の開発ができませんと国のほうが言ってきました。ですので、えーって。要は、約束していた製品が届かなかったわけです。我々は、それはどういうことなのかということになります。合意したものがなくなったわけです。それがつくれませ

んその製品が、と国が言ったので、これは国の責任だということは国も認めているということです。ここまでよかですか。

ということでありますので、その後、じゃ、どうするのかというので、国のほうも、これはだから佐賀県のほうとしては、ここは在来線区間だということだから、ある部分、今の形でハード整備は終わっていると言ってもいいんですね、今の形で。ここはできた、ここはもともと在来線のまま。ここはあるわけだから。だから、今、乗り換え方式になっているわけですけれども、佐賀県のほうからこれを打開する。手を挙げていないわけだから。話はないけれども、国のほうから「幅広い協議」をしませんかというお話があったので、だから、合意はないけれども、また、さらから何かいい案ができるかどうかということについて話をするのはいいですよということで「幅広い協議」がありました。

ですので、我々とすると、ルートだとか、いろんなことについて提案をしたりしましたけれども、なかなかその間、いや、国のほうはこの赤いところのほうを通る、佐賀駅を通るフルしかないんだということで、全く従来の考えを言うばかりであって、なかなかそこについて協議をする状況が整わなかったということなんです。

なので、なかなか「幅広い協議」というのは難しいなと思ったわけですが、もともとさっき言いましたように、長崎県と佐賀県で合意して、JR 九州も合意して、じゃ、これでやろうということでやってきたものだから、先だって長崎県と JR 九州と一緒に 3 者で会って、これまでのそういった経緯だとか、いろんなやり取りについて私のほうからも説明をして、この後、長崎県さんは何か考え方があるんでしょうか。場合によっては幾らかお金を出したりすることもあるんでしょうか。JR 九州さんは貸付料ってそんなにいっぱい本当に払えるんでしょうかなんて話もしたわけです。なかなかそれは難しいということでもありますし、いや、なかなかきついなと。新たな合意をここでつくっていくというのはなかなか難しいなというふうに思った次第です。それでも、3 者こうやって会うというのはとても意義があったねという話にもなったし、これからも、特に長崎県さんは今でもいろいろ思いがあるみたいですから。

ただ、私は長崎県さんに対して、これはもともと地元で一致して国のほうに持っていった話だから、国に要請するのは筋違いじゃないのという話は再三しているんですが、だからこっちに――もし何か合意をしようとするときがあるなら、うちと向き合ってみたらどうですかという話はずっとしてきたわけです。でもなかなか、例えば、国も入れてという話がありますけど、もともと合意があったところに国が来ているわけで、だから、その前から、国を入れてというのは、私からするとよく分からない。地元が欲しいからというのが整備新幹線スキームだから。そして、ましてや、ここは全部佐賀県区間なので、どうしてもやっぱり我々の考え方というのが大事であると思うんですね。

ということなので、まとめると、これからも、だから、我々は常に広い心で、もちろんいろんな皆さん方の意見も聞いて、それが本当に我々として合点のいく、合意のいく案であれば可能性は出てくるでしょうし。と思っています。

なので、国からまた要請があれば協議を続けたいと思っているけれども、先だって幹線鉄道課長が佐賀駅を通る決起大会の基調講演なんかをするという話があって、南里副知事が幅広く協議しているのに、決起大会に出るというのはないんじゃないのと連絡したらしいですが、でも、それでも来られたので、どういうつもりなのかなと。協議しているのに一点詰めで来るという、そういう姿勢についてはいささか疑問に思っているという状況です。

〇STS

ありがとうございます。

確認ですけど、地元合意を新たに得るということで始まった話なので、今後もこの話を続けていくことについては三者で行って、国は受け入れるつもりはないということ。

〇知事

はい。

〇読売新聞

先ほどの質問の関連で、やはりさっきの決起大会もそうですけれども、国からの要請以外でも、地元でも佐賀駅を通るルートを求める機運があるというのは事実としてはあるわけですけれども、地元の方々で佐賀駅を通したいという思いを持たれている方へどういうふうに説明をするか、もしくは向き合うか、その辺りのお考えを教えてもらえますか。

〇知事

これは幾らでも話す準備もあるし、議論したいと思います。我々は、一番分かりやすいのは、3 つ大きな課題がありまして、これは森山委員長とも共有しているんです、この 3 つの課題については。そのうちの 1 つ、財政負担について、今のままだとこの区間だけで 1,400 億円実質負担が出るので、こうなると、トータルで長崎県の 2.5 倍、我々がそこまで負担しての効果があるのかといったことだとか、今、我々にとって、環境的にはそんなに悪くはないので、佐賀駅を通る鉄道の環境はですね。ということなんかも含めて意見交換をすることについては全くやぶさかではないわけです。

ただ、我々として、やはり私も県を受け持っている中で、自分としての判断というものもあると思うので、そういった様々な意見、これは駅を通るだけではなくて、南ルートの意見もあるし、様々な声、いろんな声があります。新幹線の話というのは非常に分かりやすいことからか、私はいろんな県民からも様々な観点から様々な声もいただいているので、そういったことも踏まえて、私なりに県議会とも議論をしながら方向性を見つけていきたいと思います。

〇日経新聞

今の質問に関連してなんですが、先日、県の自民党大会に森山さんがいらしてい

て、そのときもご挨拶の中で、一番最後のほうでしたが新幹線問題に触れて、その際に、遅れないように進めていきたいとか、佐世保との約束を忘れてはいけないというような発言があったんですが、あの辺りはどういうふうに捉えていらっしゃいますか。

〇知事

合意があればという話だと思います。なので……。

〇日経新聞

地元で。

〇知事

そう。だから、もともとこれで合意をしていたわけです。だから、そこで佐賀県はその合意を守ろうと思って、その責任を果たそうと思ってやってきたし、それ自体が佐世保のためになるのかどうかはあるけれども、これまでの経緯も踏まえて真摯に対応してきたんです。国もこのフリーゲージトレインは信用してくれ、大丈夫だからと、私も散々記録を読みましたけれども、それを勧めているわけですね、地元に対して。なんだけれども、その線が届かないわけです。やっぱりできませんと。なので、やっぱりそこって筋目というのが話にはあって、そこを何か押さえ込みみたいな形というのはあり得ないので。

だから、基本的に合意が、こういうものというのは、やはり合意ができたときにそれを国なり、与党で調整していただくというスキームだと私は理解しているので、今それがないので、そうおっしゃられてもというところです。

令和6年4月26日　知事定例記者会見［抜粋］

〇朝日新聞

すみません、手短に。新幹線の問題で、かねてから地元での話合いの場というのを呼びかけておられて、いろいろ調整されている段階かと思うんですけど、その現状、見通しをちょっと伺えればと思います。

〇知事

今日は、大体いつも 4 月の会見で新幹線の話が多いんですけれども、ぜひ、我々も率直に、記者の皆さん方に説明をさせていただいて、意見交換をしながら進めたいと思います。何となく、ぱっと見ると、佐賀が何かをしているという、通せんぼしていると勘違いしている人がおられますので、ぜひね、そういったところは、話せば分かるんです。話せば分かるんだけれども、話すには一定の時間が必要なので、ぜひそういったところを、我々も努力をしていきたいと思います。これまでには様々な経緯があって、佐賀県なりの苦渋の考え方というのもあるし、そういったところについての説明をこれ

からもしていきたいと思います。

そして、もともと新幹線の問題というのは、佐賀県が長崎県のことも考えて、そしてJR 九州さんと一緒になって、佐賀県も大きな犠牲を負う中で、佐賀の、いわゆる新鳥栖−武雄温泉間については、在来線を通る新幹線、いわゆるフリーゲージトレイン、フリーゲージトレインという可変型車両によって新幹線整備を行うというところまで妥結していたわけです。ですので、そこが、国がフリーゲージトレインという、佐賀県は在来線よという合意だったのに、そこが通れなくなったから、いきなり我々が合意したこともないフル規格ということに乗り出してきてというところに一つの大きな問題があって、課題があると思うんです。

なので、フリーゲージトレインが断念されたわけで、そういった意味では、あくまでも新幹線整備というのは地元の意思に基づいてやるという整備スキームだから、原点は地元なんですよね。なので、地元でもう一回話し合いたい。これまでいろんなことがあったけれども、率直に意見交換をしたいということで、JR 九州さんと長崎県さんと意見交換をしたいということで考えておりまして、5 月 13 日の月曜日に実施をしたいということでございます。よろしくお願いします。